理研会報

発行
印教研理科研究部
事務局
成田市幸町948の1
成田小学校内

千葉研東総大会（銚子市）報告

発表報告

東庄小　大野学史

昨年11月、銚子市立興野小学校で開かれた、第21回、千葉研理科教育部会研究発表大会で発表させていただきましたので、内容の報告をいたします。

発表は、分野別におこなわれましたが、「地球と宇宙」へ出席しました。次に発表内容の概略をあげます。

○主題「よくわかる天体教材の指導」――5年　星とその動きを通して

○目標　指導過程や、方法を検討し、だれが教えても児童が興味を持ち、取り組むような指導計画をつくる。(2)広く資料を収集したり自作したりして、指導の充実をはかる。

○仮説　児童が興味を持ち取り組むことにより、学習の効果があがるだろう。(2)もしっかりとした観察をさせることが、より推論へとつながっていくだろう。

○実践例

(1)「星とその動き」で指導する内容を把握し、興味や関心を高めることも念頭におき、過去の学力テストの結果も分析し、指導計画を作成したこと。

(2)学習指導の資料として、指導計画にあわせたスライド番組を自作し、利用したこと。

(3)児童が興味を持ち学習に取り組んだり、理解がしやすいような教具や資料、学習活動等の工夫。（星物語をつくらせる、観察器具モデル化など）

(4)事後のテストや学力テストの分析、学習後の感想

(5)成果として、児童が単元展体を通して意欲的に取り組むことが出来、理解もなされていたこと。課題としては、教師が指導できる直接の場がほしいことや指導時期の検討も考えていること。以上のことについて発表してみました。

私の他に7名の先生方の発表もありました。

八千代市立八千代台小学校の鈴木前文先生からは、プラネタリウムを効率よく授業に導入するために、カリキュラムの組みかたとプラネタリウムのプログラムを計画したことが発表されました。

茂原市立本納小学校の伊藤秀世先生からは、楽しい理科学習ということで「流れる水のはたらき」を例に発表がありました。

君津市立中小学校の渡辺利夫先生からは地層の学習適地を求めたことが発表されました。

地域の実情に応じた指導といういうことを強く感じ、貴重な体験をすることができました。

県教研　山武大会　報告

佐倉小　深山民夫

東庄で行われた県教研では、十二支部から提案がなされた。

討議の柱と提案のテーマは、以下のとおりであった。

◎よくわかり児童に楽しさを把かせる指導法は、どうあるべきか。

1、ひとりひとりを生かす理科指導（山武）

2、自然とのふれあいを重視し、楽しさを把かせる理科学習は、どうあるべきか（印旛）

3、生き物を愛する豊かな心情を育てる理科指導を求めて（市原）

4、低学年理科をどのようにするか。――ダンゴムシ――（松戸）

5、自ら進んで考える態度を育てる理科指導は、どうしたらよいか。（香取）

6、子どもがわかる理科指導（長生）

7、子どもたちの学習態度を意欲的にするために、個の生きる学習活動の場をどのように構成すればよいか（君津）

8、ひとりひとりを大切にし、学習意欲を高めるための事実発見の指導（市川）

9、ひとりひとりを生かすことをめざして（千葉）

10、四学年「電気教材」における関心態度の評価について（東総）

◎地域の自然をふまえた正しい自然観を育てる理科指導はどうあるべきか

11、身近かな自然に目を向け生き生きと活動する子どもをめざして（習・八）

12、ひとりひとりが意欲的にとりくむ地層の学習の試み（東隅）

物理化学領域を扱ったもの四支部、生物領域六支部、地学領域二支部であった。

提案の内容は、「楽しさを把かせ主体的で学習する子どもをめざした学習指導」といったものが多く提案され、そのための効果的実験法や教材の開発、地域の自然の調査といったものが発表された。

印旛の提案に対しては、三年間の研究の積みかさねということに対して、高い評価が得られた。そして、個人研究や研究校からの発表が多い中で、研究員による共同研究体制がとれていることに対しても、高く評価をしていた。

助言者からは、子どもに意欲を持たせるための教師の心がまえ、提案は、内容を焦点化させて簡潔にすることなど、具体的な点について指導された。

研修雑感

中台中　寺内義雄

最近「理科をやっていてよかったなあー」とつくづく思う。

野を歩けば大イヌフグリがもう話しかけてくれるし、夜中に外へ出ればオリオン座とシリウスが強烈な光で呼びかけてくれる。マイコンとも話しができるし、器具が多少故障してもけっこう処理することができる。

でも、これらの知識はほとんど教員になってから身につけたものである。植物名も星座名も、成田層の貝も、コンピューターベーシックもみんな教員になってからおぼえた。ものの考え方もかわってきた。

研修の機会に恵まれ、先輩に恵まれたことを感謝すると共に、職業の一部として認められた研修により自分自身を高めてゆける教員という職業に満足している。

私どもの育った時代と今日の研修で感じたことを一言。

学校群研修・層別研修と研修が体系化・組織化されてきた。このことにより研修に熱心でない人も研修からにげることはできなくなった。しかし逆に「研修は教育委員会がセットしてくれるもの、高校や大学で勉強して（させられて）きたように、教員というレールの上にのっていれば必要なことは教えてくれる」という考えが生まれてきていないか。教育センターの希望制研修も自分の希望より校長の考えや校内事情が優先し、けっして主体的でない。

人は、物質が豊富になれば物を粗末にし、研修が整備されると研修に貪欲でなくなる。時代の流れと言えばそれまで。でも真に身につく研修は主体的研修のはずです。

若い先生方、中堅の先生方、自分でテーマを見つけ、本を読み、実験授業をして友達と議論しましょう。夢中になっている時代は楽しいし、充実もしている。終ってみると多くの事が自分に残ります。

具体的には、教科の研究テーマを見なおそう。昨年と同じではありませんか。何にでも役立つような幅の広いテーマではありませんか。少なくとも昨年一年間で一歩前進できる共通しをもてる具体的なテーマにして下さい。

研究授業はその教材だけを調べ教案をつくり展開するという、研究授業という障害をワリアーするだけに終っていませんか。教科のテーマを解決する方法を挿入して下さい。単元目標・内容・系統を調べてから方法論や時期を考えて下さい。

理科クラブなど子どもと共に学ぶことも多いものです。